シンポジウム記録 日本水産学会のこれから—課題と展望

3-(1) 今後の学会のあり方—1： 執行体制や委員会活動の視点から —執行体制と委員会の現状

佐藤 秀一

東京海洋大学海洋生物資源学部門

3-(1) What JSFS should be in the future?—1: From the view point of an executive board and committees
— Current status of an executive board and committees

SHUICHI SATOH

Department of Marine Biosciences, Tokyo University of Marine Science and Technology, Minato-ku, Tokyo 108-8477, Japan

日本水産学会には、北海道、東北、関東、中部、近畿、中国・四国、九州の7つの支部がある。それぞれの支部には、支部の会員によって支部幹事が選出され、支部の運営を司る。そして、学会全体を取りまとめる執行部として理事会がある。理事会は、20名の理事と3名の監事で構成されている。全国の支部幹事により、10名の理事候補者と2名の監事候補者が投票で推薦される。また、7つの支部より1名ずつ理事候補者が推薦される。さらに、会長が3名以内で指名する理事候補者がいる。また、会計士あるいは税理士の資格を持つ監事が1名推薦される。推薦された者は通常総会の議を経て理事および監事となる。理事の中から互選で、会長が選ばれる。会長により、副会長が選ばれ、各理事が図1に示すように25の役割を担当する。そして、その分担先にはそれぞれ委員会があり、委員と幹事が委員会を運営し、担当理事が所掌する。これらの委員会とは別に学会には事務局があり、総務担当理事と総務幹事、庶務幹事、ならびに事務局職員が学会全体の所掌と理事会、総会の運営を担当する。財務関連も委員会を持たず、担当理事と会計幹事、ならびに事務局職員で学会の財務管理、会計処理を行う。将来計画については、主に副会長が所掌する。

委員会は通常委員会が16、特別委員会が5つ現在、設置されている。委員会の中には編集委員会や学会賞選考委員会など、設立当初から設置されている委員会と国際交流委員会、水産教育推進委員会、男女共同参画推進委員会、水産政策委員会など、比較的最近設置されたものもあり、増加傾向にある。委員会委員の総数は325名となり、会員の10人に1人がいずれかの委員会に参加していることとなるが、実際は複数の委員会委員に

図1 日本水産学会の執行体制

なっている会員が多くいる。それでは、次に主な委員会について、その所掌する内容について説明する。編集委員会は、日本水産学会誌と Fisheries Science に掲載される報文の編集に関わる仕事を行う。投稿された原稿を副委員長が各委員へ編集を依頼し、各委員が査読を会員に依頼し、掲載へと進める。委員会自体は1年に4回ほど開催されるが、原稿は1年中投稿されるので最も忙しく重要な委員会である。企画広報委員会は、当初日本水産学会誌の報文以外の企画記事を編集することが仕事だったが、現在では学会のホームページの管理等も担当し、学会にとっては非常に重要な役目を担っている。企画記事の編集には、やはり Face to face の実際の会議が必要であり、年間7回の会議が開催される。委員数の多い委員会としては水産教育推進委員会がある。水産教育推進委員会は以前、JABEE 対応の委員会として発足した。現在は、JABEE 対応にとどまらず、水産教育全般に関し活動を行っている。シンポジウム企画委員会、出版委員会、水産技術誌監修委員会は、シンポジウムや出版物の編集、監修を行っている。また、漁業、水産利用、水産増殖の各懇話会委員会は1年に数回開催される講演会の企画、運営を行っている。他、水産政策委員会は水産に関わる重要な政策について、検討する委

員会である。この他、7支部においても、支部総会、支部例会、支部発表会等、活発に活動している。各委員会における女性会員の数を見たところ、男女共同参画委員会は半数が女性会員であるが、それ以外の委員会では0~2名ほどしか参加していないことがわかった。また、各委員会の幹事の支部をみると圧倒的に関東支部からの選出が多かった。

理事、監事、幹事、各種委員会委員は誇りを持って、水産学会に貢献しようと努力している。しかしながら、前述したように関東の会員の中には多数の委員会委員を兼ねている者もいる。このように、多くの委員会を兼任

しているとどうしても、すべての委員会に全力を尽くすことは難しい状態となる。最近では、一部の委員会を除きメール会議等を利用している委員会も多数あることから、できるだけ多くの会員に委員会をはじめとする学会の運営に参加して頂き、学会活動を活発にして頂きたい。特に、関東以外の会員に、是非委員会に奮って参加して頂きたい。若手の会員に参加をお願いし、要望を反映して頂きたい。また、委員会における女性会員の意見も非常に重要だと考えられるが委員会への参加は限られているので、今後、多くの女性会員の委員会への参加が望まれる。